

福島県男女共生センター職員自主研究 「男性の家事・育児参画に関する調査」の概要

福島県男女共生センターでは、本県における男女共同参画社会の形成を推進する上での問題点を探るための調査研究を行っています。今回は、平成17年度に行いました自主研究「男性の家事・育児参画に関する調査」をとりまとめましたので、その概要をご紹介します。

1 調査の目的

家庭内における男女共同参画は、職場や地域等における男女共同参画と並んで、男女共同参画推進の大きな柱である。しかし、全国的にも、県内においても、男性の家事・育児への参画は進んでいるとは言い難い状況にある。

そのため、本調査研究では、県内を対象に「男性の家事・育児への参画」の実態を調査するとともに、その背景には何があるのかを探り、参画を阻害する要因を分析する。

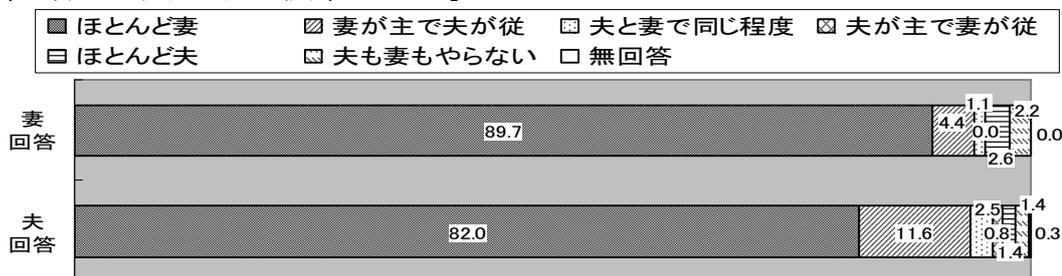
2 調査の概要

福島県内の小学生以下の子どもを持つ男女約2,000人を対象に、郵送法による質問紙調査を行った（平成17年12月～平成18年1月）。有効回収数は633（回収率31.6%）、うち、女性は272（回収率33.9%）、男性は361（回収率30.0%）であった。

(1) 家事・育児共有の実態

家事について、「朝食をつくる」「夕食をつくる」「食器洗い」「部屋掃除」「風呂掃除」「トイレ掃除」「食品等購入」「洗濯・アイロン」「ごみ出し」「家計管理」の10項目、育児について「おむつの取替え」「ミルク・食事」「風呂入れ」「保育園等送り」「保育園等迎え」「保育園等行事」「叱る」「看病」「遊ぶ」「寝かす」の10項目の分担状況を調査した。

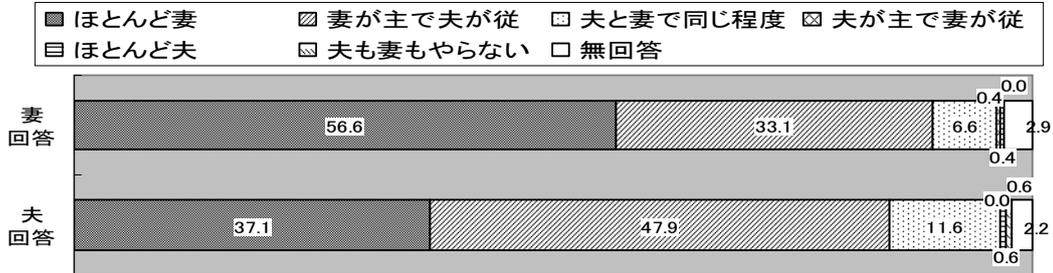
【家事分担の代表事例：朝食をつくる】



家事に関しては全項目で「ほとんど妻」「妻が主で夫が従」を合わせたものの割合が全体の7割を超えており、特に「朝食」「夕食」「トイレ掃除」「洗濯・アイロン」では、「ほとんど妻」との回答が全体の8割を超えるなど、妻の負担が非常に大きいことがうかがえる。比較的夫の分担割合が高かったのは「ごみの分別、ごみ出し」（「ほとんど夫」

と「夫が主で妻が従」を合わせたものが、全体の16.4%)、「風呂掃除」(同13.3%)であった。

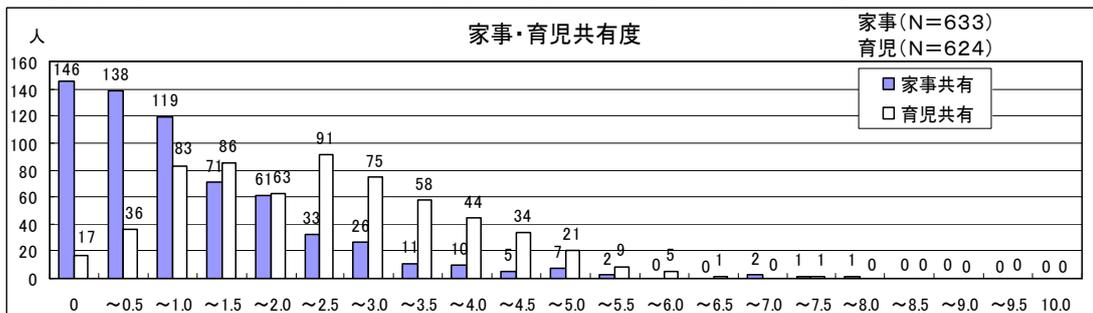
【育児分担の代表事例：おむつの取替え】



一方、育児の場合、家事と比較すると夫の分担割合が高くなっているが、妻の負担が大きいことには変わりはない。特に妻の分担割合が高いのは、「おむつ」「ミルク・食事」「看病」で、これらの項目では「ほとんど妻」と「妻が主で夫が従」を合わせたものの全体に占める割合が8割を超えていた。比較的夫の分担割合の高かったのは「風呂に入れる」(「ほとんど夫」と「夫が主で妻が従」を合わせたものが、全体の39.0%)、「子どもの遊び相手」(同15.5%)であった。

(2)各要因と家事・育児共有度

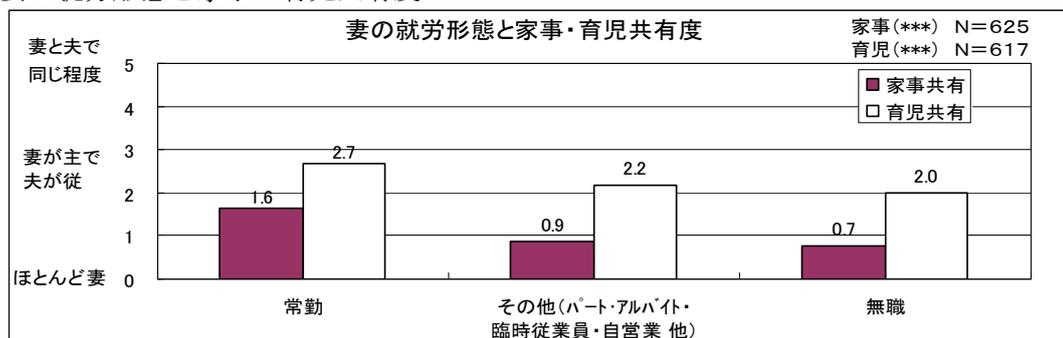
家事10項目・育児10項目の分担状況の調査結果を基に「家事共有度」「育児共有度」(家事・育児が夫婦間でどのように共有されているかを示す尺度。家事・育児を行うのが「ほとんど妻」である場合は0、「ほとんど夫」である場合は10となるようにした。)を算出し、この共有度と様々な要因との関連性を調査・分析した。



代表的な要因と家事・育児共有度との関係については、以下のとおりである。

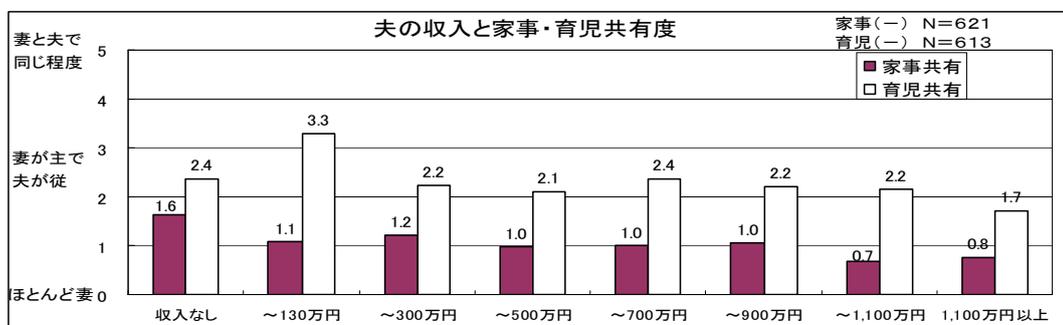
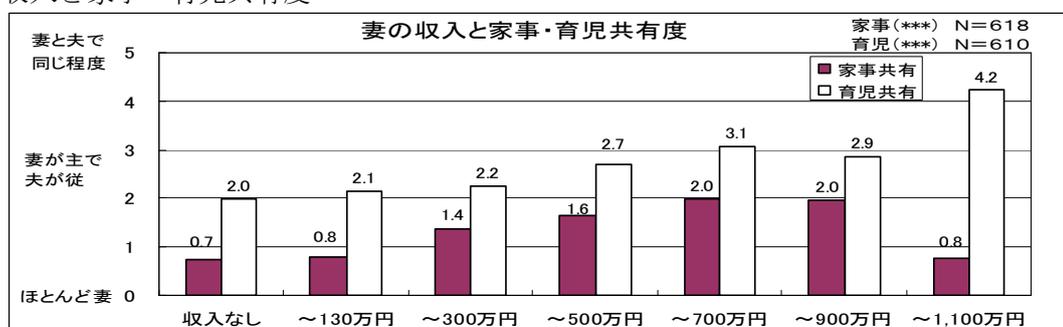
(※ 各グラフについている*や**というマークは、検定の結果である。*の数が増えるほど可能性は高くなる。(一)は関係がはっきり認められなかったという意味。)

○妻の就労形態と家事・育児共有度



家事・育児ともに、妻「常勤」家庭の共有度が最も高く、次いで、妻「その他」家庭、妻「専業主婦」家庭の順となった。特に家事においては、妻が「常勤」であるかどうかで大きな差がみられ、妻「その他」と妻「専業主婦」は低い数値にとどまった。

○収入と家事・育児共有度

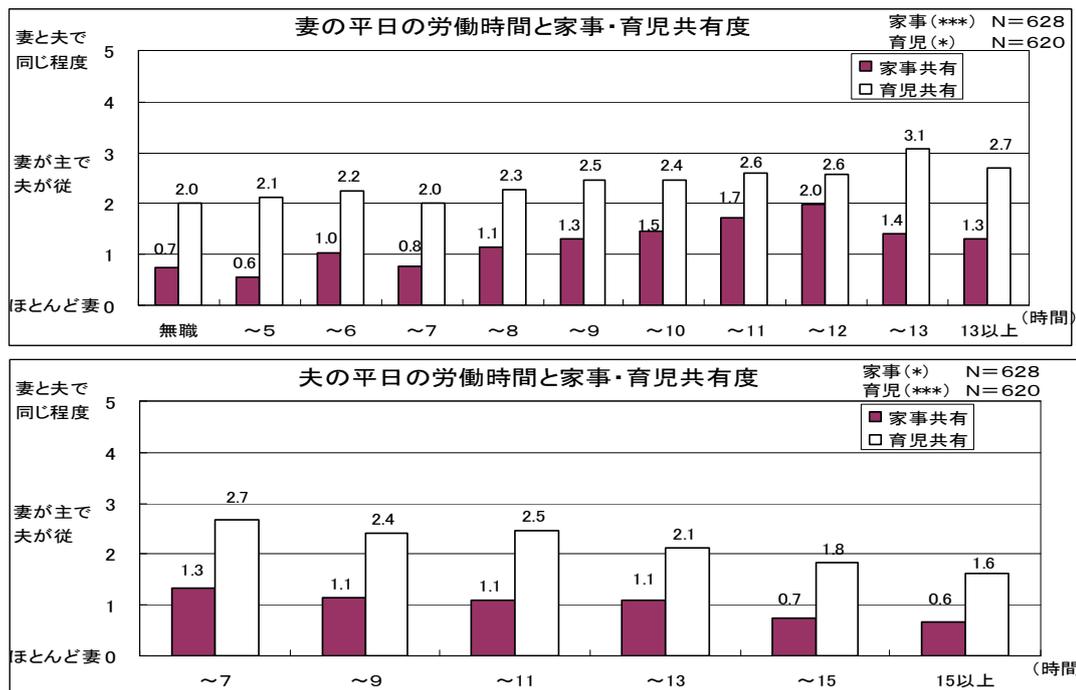


妻の収入に関しては、家事・育児ともに関連がみられた。家事については、年収130万円を超えると収入が増えるにつれ共有度が上がる傾向がみられるが、妻が夫の扶養範囲でいられる年収130万円未満では「収入なし（無職）」と共有度にほとんど差がなく、低い数値に留まった。

育児についても、収入が増えるにつれ、共有度が上がる傾向がみられるが、家事のように年収130万円を境にして共有度に違いが見られることはなかった。

一方、夫の収入と共有度との関連は認められなかった。

○労働時間と家事・育児共有度



妻の労働時間が長くなるほど家事・育児ともに共有度が上がる傾向がみられた。

一方、夫の労働時間については、労働時間が長くなるほど家事・育児ともに共有度が下がる傾向がみられた。しかし、これについては、「家事・育児の共有は夫の労働時間よりも妻の就労形態により強く影響される」といった先行研究があるため、その関係を調べた結果、家事については、妻「常勤」家庭、妻「その他」家庭、妻「専業主婦」家庭のそれぞれすべてにおいて、夫の労働時間が長くなるにつれて家事・育児共有度が下がる傾向は特に認められなかった。そして、妻「専業主婦」家庭の労働時間の短い夫よりも、妻「常勤」家庭の労働時間の長い夫の方が共有度が高かった。

一方、育児においては、妻「常勤」家庭、妻「その他」家庭、妻「専業主婦」家庭のそれぞれすべてにおいて、夫の労働時間が長くなるにつれて共有度が下がる傾向がみられた。

〈まとめ〉

各要因と家事共有度・育児共有度との関係を整理すると以下のとおり。

家事共有度	育児共有度
<p>○関係が認められたもの</p> <p>妻の就労形態 妻の収入 妻と夫の収入格差 妻の労働時間</p> <p>妻の学歴</p> <p>結婚時、出産時等の話し合い ふだんの話し合い 夫の家事・育児に関する知識・技術</p>	<p>○関係が認められたもの</p> <p>妻の就労形態 妻の収入 妻と夫の収入格差 妻の労働時間 夫の労働時間</p> <p>子どもの数(妻「専業主婦」家庭) 結婚時、出産時等の話し合い ふだんの話し合い 夫の家事・育児に関する知識・技術</p>
<p>○妻の就労形態を通じて影響するものと考えられるもの</p> <p>夫の労働時間 妻の性別役割分担意識 夫の性別役割分担意識</p>	<p>○妻の就労形態を通じて影響するものと考えられるもの</p> <p>妻の性別役割分担意識 夫の性別役割分担意識</p>
<p>○関係が認められなかったもの</p> <p>妻の年齢・夫の年齢・年齢差 夫の就労形態 夫の収入</p> <p>夫の学歴 妻の出身地・夫の出身地 子どもの数 一番年下の子の年齢 妻が育った家庭での家事・育児分担 夫が育った家庭での家事・育児分担 親との同居・別居、親の住居との距離</p>	<p>○関係が認められなかったもの</p> <p>妻の年齢・夫の年齢・年齢差 夫の就労形態 夫の収入 妻の学歴 夫の学歴 妻の出身地・夫の出身地 子どもの数(妻「常勤」「その他」家庭) 一番年下の子の年齢 妻が育った家庭での家事・育児分担 夫が育った家庭での家事・育児分担 親との同居・別居、親の住居との距離</p>

関係が認められる要因のうち、類似しており関連性が高いと考えられるものを1つの括りで捉え直し、再度整理すると次のとおりとなった。

○家事共有度を高める要因

- ・妻の就労状況（常勤，労働時間が長い，高収入，妻と夫の収入格差が少ない）
- ・妻が高学歴
- ・よく話し合う（結婚・出産時，ふだん）
- ・夫が家事に関する知識・技術がある

○育児共有度を高める要因

- ・妻の就労状況（常勤，労働時間が長い，高収入，妻と夫の収入格差が少ない）
- ・夫の労働時間が比較的短い
- ・子どもが複数いる（妻「専業主婦」の場合）
- ・よく話し合う（結婚・出産時，ふだん）
- ・夫が育児に関する知識・技術がある

(3)自由記述

男性が家事・育児をすることについてどう考えるかを自由に記述してもらった。その結果、回答者 633 名中 309 名から記述を得ることができた（内訳 妻：回答者 272 名中 169 名 夫：回答者 361 名中 140 名）。

〈コメント全体を通しての印象〉

男性が家事・育児をすることについて、妻の側からは肯定的な意見が圧倒的に多かった。特に、実際の家庭内の状況を説明し、その必要性を訴えるコメントが多く見受けられた。夫の側からも、妻ほどではないが肯定的なコメント、理解を示すコメントが多かった。

実際の生活においては、家事・育児を行うことに肯定的な男性であっても現実には家事・育児は「ほとんど妻」「妻が主、夫が従」といった状況であり、その理由として、男性をとりまく厳しい労働環境や、比較的高齢の世代を中心とする意識等を挙げるコメントが多く見受けられた。

一方では、男女特性論も根強く、男性の家事・育児参画を肯定する意見が大多数を占めた妻回答の中にも「男性・女性それぞれの得意・不得意」「男性・女性それぞれが担うべき役割」を考慮した上で、分担や協力を行うべきとのコメントが少なからず見受けられた。